

新たな納豆抽出物のヒト血液凝固線溶系への影響について

¹⁾獨協医科大学法医学教室, ²⁾医療法人鶴友会半蔵門胃腸クリニック、³⁾大和薬品株式会社

○大村和伸 ¹⁾³⁾、一杉正仁 ¹⁾、掛谷和俊 ²⁾、前田浩明 ³⁾、徳留省悟 ¹⁾

<緒言>

納豆には各種プロテアーゼが豊富に含まれ、近年では健康食品として注目されている。われわれはビタミンKを含まない納豆培養物から、抗凝固および線溶作用を有する新たな物質（以下NKCPと略す）を抽出し、ヒトにおよぼす影響を検討したので報告する。

<方法>

納豆培養物から、1mgあたりプラスミンの特異的合成基質であるS-2251を10nmol加水分解するNKCPを抽出した。所定の医療機関での臨床観察が可能な成人被験者に、NKCPを250mg含有する錠剤を連日経口摂取させ、2週間の亜急性摂取時と2ヶ月の慢性摂取時の影響を観察した。測定パラメータは、ユーグロブリン溶解時間(ELT)、組織プラスミノゲンアクチベータ(tPA)、活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)、D-ダイマー(D-d)、フィブリノーゲン(Fbn)、フィブリン分解産物(FDP)、ヘマトクリット(Ht)とし、慢性摂取では、さらに3つの自覚症状「頭痛」、「肩こり」、「めまい」を加え1ヶ月毎に調査した。

<結果>

28例(男性11、女性17、年齢 59.1 ± 12.1 歳)を対象とした亜急性摂取では、ELTの有意な減少を認めた。そのほかのパラメータに有意な変動はみられなかった。23例(男性14、女性9、年齢 51.7 ± 12.4 歳)を対象とした慢性摂取では、摂取前に比し有意なELTの減少とtPAの上昇が1ヶ月目と2ヶ月目にみられた。また、自覚症状では「肩こり」が有意に改善していた。

<結論>

NKCPの経口摂取によって血液線溶活性が亢進することが判明した。また、慢性摂取で認めた肩こりの有意な改善は、局所循環改善によるものと示唆された。今後、血栓症予防を目的とした臨床応用に向けてさらなる検討が必要と思われる。